



令和6年度約51万人が来店した「う宮へな」

JAファーマーズマーケット・直売所では「ファーマーズマーケットらしさにこだわった店舗運営」で生産者の農畜産物を販売し、生産者と来店者がつながる「こだけ店舗」の提供や地産地消・国消国産に取り組んでいます。

県東部地域110万人の消費者に、地元生産者が生産した農畜産物を届けるため、管内各産地を結ぶネットワーク「販売物流プラットフォーム」を活用して販路を広げています。また、鮮度とおいしさ、安全・安心

ファーマーズマーケットらしさにこだわった店舗運営

地域ナンバーワンの「こだけ店舗」を目指し
地産地消・国消国産を实践し「JAファーマーズマーケット」



販売物流プラットフォームのトラックで運び各産地の旬や特産品を管内各地で販売

にこだわった商品の適正価格での提供、サステナブルフードの取り組み（仕入品などの廃棄ロス削減等）などを行っています。

農畜産物に対する信頼感と農業への理解醸成

ファーマーズマーケットの出荷会員を対象に、食の安全講習会などを開催する他、農薬の適正使用や生産履歴の記帳の徹底、食品衛生管理に対する情報を提供しています。

ファーマーズマーケット取扱高計画 (単位：百万円)

	令和7年度	令和8年度	令和9年度
委託取扱高	2,560	2,580	2,617
買取取扱高	1,556	1,576	1,595

ファーマーズマーケットでの取り組み目標

併せて、出荷物の残留農薬検査を行うなど、安全・安心な品質の確保と消費者の地場農畜産物への信頼確保・理解醸成につなげていきます。

上記の他、今後は出荷会員に、売れ筋品目の提案や栽培技術の支援、出荷ルールの統一化、生産資材情報の提供なども行っていきます。

令和7年度ファーマーズマーケットの取扱高計画は、委託取扱高で25億6000万円、買取取扱高で15億5600万円を見込んでいます。

当JAでは、タブロイド版広報誌を県東部地域全域に、奇数月1日に新聞折り込みで発行しています。農家組合員や地場農畜産物の紹介、ファーマーズマーケットなどで購入できる旬ものの話題を掲載しています。タブロイド版広報誌の目的の一つは、准組合員をはじめ地域住民に、農家組合員や地域農業のファン・応援団になってもらうことです。

農家組合員の栽培にかける思いや農畜産物の魅力を届け、食と農への関心を高めて、地場農畜産物を買って食べてくれる応援団を増やしたい「地産地消・国消国産」につなげたいと考えています。

広報誌で旬・特産品の魅力を発信



タブロイド版広報誌で県東部全域に農家組合員の農畜産物を紹介

特集 JAふじ伊豆の 国消国産

ファーマーズマーケットを通じて
組合員の農畜産物を県東部地域110万人の消費者へ

10月16日は国消国産の日

JAグループでは、「私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する」という考え方で「国消国産」を進めています。生産者にも消費者にも大きな効果があり、また、食料安全保障やSDGs（持続可能な開発目標）の実現にも関連深いのが国消国産です。

今回の特集では、国消国産の効果や、JAふじ伊豆の取り組みを紹介するとともに、国消国産を支える生産者の皆さまへ向けた消費者の皆さまからの応援メッセージをお届けします。



©みんなのよい食プロジェクト

国消国産が日本の食の未来をつくる

日本はカロリーベースで食料の約6割を輸入に頼っています。世界人口の増加や自然災害、疫病、円安、紛争…などで食料輸入が止まった時、深刻な食料不足に陥ると懸念されています。

農畜産物の増産はすぐにはできません。日頃から「国消国産」を進め、日本の農業と生産者を守ることが大切です。

地域で生産したものを地域で消費する「地産地消」の積み重ねが「国消国産」につながります。JAグループは、生産者が作った農畜産物を消費者が食べて応援する「地産地消・国消国産」を進め、子どもたちの未来に食の安心をつなぎます。

国消国産はいいこといっぱい

①「食料自給率アップで、緊急時にも安心」
将来は地球規模で食料不足になると予想されています。食料輸入が滞った時でも食料の安定的な供給の確保につながります。

②「日本の農業・生産者を食べて応援」
国産農畜産物の消費は、持続的な農畜産物の生産と地域の活性化につながります。

③「安全・安心な国産農畜産物の提供」
消費者に、日本の生産者が作った安全・安心なおいしい農畜産物を提供します。

④「SDGsの実現に貢献」
農畜産物の輸送によるCO₂排出を抑えることができ、環境保全を目標に掲げるSDGsの実現に貢献できます。

食料自給率アップで緊急時などにも食料確保が可能



日本の農業・生産者を食べて応援し持続可能な農業生産を実現



食品衛生法など日本の関連諸法令に沿った安全・安心な国産農畜産物の提供



農畜産物輸送時のCO₂削減などでSDGsの実現に貢献



など、さまざまな効果が期待できます

さかもと しゅんすけ
坂元 俊輔さん(御殿場地区)

日本の四季をさまざまな調理法で自由に楽しむレストラン
イナホ ミュゼオ
inaho museo経営

毎日、ファーマーズ御殿場で店の料理に使う農産物を購入しています。旬の農産物が並び季節を感じて、どんなメニューにしようかと考えるのがとても楽しいです。裾野市や長泉町、三島市、伊豆の国市などのファーマーズマーケットにも通っています。

ファーマーズマーケットの魅力は旬の農産物ですが、珍しい野菜の販売や同じ野菜でも生産者さんによって品種の違いでさまざまな形や味があるのも大きな魅力。心を込めているのが伝わってきます。私の料理を通して、生産者さんの思いをお客さまに伝えていきたいです。



消費者から 生産者へ

応援メッセージ



各地区のJAファーマーズマーケット・直売所
を利用されている消費者の皆さまから
生産者の皆さまへの応援メッセージです。
生産者と消費者をつなぐ
JAファーマーズマーケット！
食べて生産者と地域農業を応援します！

そね けいこ
曾根 恵子さん
(なんすん地区)

ファーマーズマーケットは新鮮な野菜をはじめ、品ぞろえが豊富で、他の販売店にはない魅力があります。作っている方の顔が見えるのもうれしく、応援したくなる生産者さんがたくさんいます。

金岡産直市で毎週火曜日に販売される女性部のお総菜を楽しみに週に1回以上通い、友人にもよく勧めています。地域のために頑張ってくれている生産者さんに感謝しています。



もちづき しげこ
望月 榮子さん(右)
(富士地区)
ちだ きょうこ
地田きよう子さん(左)
(富士宮地区)

富士の産直市やファーマーズマーケットをよく利用しています。採りたて新鮮な野菜はやはり一味違っておいしいです。産直市に行き、直接生産者さんにおいしい食べ方を聞くのも楽しみです。孫たちも旬の野菜やお茶を楽しんでいます。

生産者さんが暑い中でも朝早くから頑張ってくれていることに感謝しています。

私たち消費者も地元の野菜をたくさん食べて、生産維持に協力できればと思います。



いとう あや
伊藤 文さん
(三島函南地区)

2年前に三島市に引っ越して来たら、みしまかんを2日に1回利用しています。新鮮で安全な野菜が豊富にそろっていて、ワクワクしながら買い物をしていきます。県外の友人に地元産の農産物を送ると「おいしい」ととても喜んでくれます。

生産者の皆さんがおいしい農産物を作ってくれるおかげで、毎日健康に過ごせます。猛暑で大変だと思いますが、健康に気を付けながらおいしい農産物を作ってほしいです。



い で けんさく
井出 健作さん
(富士宮地区)
和の食彩 天道の店長

メニューに使う食材の買い出しのため、う宮～なを利用しています。新鮮な旬の野菜が、種類も量も豊富にそろっているので、とてもありがたいです。珍しい野菜もあり、どのようにメニューに生かそうかを考えて選ぶのも楽しみの一つです。

家庭菜園を経験しましたが、野菜の生産は大変な作業で、生産者さんには感謝です。地元生産者さんの農畜産物が手に入るファーマーズマーケットは欠かせない存在です。



JAグループでは、国連の「世界食料デー」に合わせ、10月16日を「国消国産の日」と決めました。10月1日から11月30日までは「国消国産月間」。JAふじ伊豆のファーマーズマーケットでも生産者の皆さまを応援する「JA直売所キャンペーン2025」を実施します。詳しくは、本誌20ページをご覧ください。

たけやす たまえ
竹安 珠江さん
(あいら伊豆地区)



いで湯っこ市場には近くを訪れた際は必ず立ち寄ります。地元の農産物や加工品などがそろい、生産者さんのお名前が記載されているので親近感が湧き、安心して利用しています。

食が一番大事だと思うので、生産者さんには感謝しかありません。JA女子大学などでプランターでの野菜栽培を経験しましたが、大変な手間と費用がかかることがわかり、市販の農畜産物は安いと感じました。猛暑や異常気象などで大変だと思いますが、体に気を付けてください。



たかうじ あきえ
高氏 昭江さん
(伊豆の国地区)

農の駅グリーンプラザ伊豆の国をほぼ毎日利用しています。「ホクホクのジャガイモです」「サラダにどうぞ」など生産者さんのメッセージが野菜に添えられていて参考になります。生産者さんや職員さんとのコミュニケーションも楽しく「葉がついたタマネギがほしい」など生産者さんに伝えて、要望が聞いてもらえることもあり、ありがたいです。生産者さんの経験や技術が詰まった野菜は本当においしくて信頼できます。これからも頑張ってください。